

## No.2639改

### 噴煙上げる浅間山 今行ける最高点へ 前掛山（浅間山）

実施日 2013年10月4日(金)  
天候 曇り時々晴れ  
リーダー 涌井 良明  
参加者 涌井良明、石附智江、伊藤久雄、  
宇野輝代、徳山敬子 計5名  
費用 5,000円(レンタカー・道路・燃料等)  
タイム 荻窪駅北口(6:30)～関越・上  
信越道～浅間山荘(9:00～  
9:20)二の鳥居(10:20～10:  
30)火山館(11:20～11:35)  
前掛山(13:30～13:50)火  
山館(14:50～15:20)浅間山  
荘(16:25～16:40)～帰路

当初1泊で浅間隠山とのセットプランだったが、すっかり敬遠されてしまい参加者も集まらなかったのので、前掛山のみの日帰り計画に変更してどうやら5人ほどのメンバーで実施することができた。

行ってみたら条件にも恵まれたが予想以上に良い山行になった。

泣き出しそうな空模様を気にしながら関越道を行くが、所々で遭う通り雨にやきもきしつつも、長野県に入ると多少明るさも増したような感じで何とか降らないことを期待して浅間山荘へ。

駐車場には数台の先着組がいるようだが、やはり平日は空いている。

鳥居をくぐって登山道へ進む、平坦に近い沢沿いの道が終わると一の鳥居だ。二の鳥居へは沢沿いの不動滝経由と山腹道とに分かれるが山腹道を行くことにする、直ぐに小沢を渡り山道らしい登りになる。所々赤も混じるようになった樹林帯を進む。

滝経由道の合流点が一の鳥居である。



近い沢沿いの道が終わると一の鳥居だ。二の鳥居へは沢沿いの不動滝経由と山腹道とに分かれるが山腹道を行くことにする、直ぐに小沢を渡り山道らしい登りになる。所々赤も混じるようになった樹林帯を進む。



まだ先は長い、登るにつれ秋色も目立つようになり、すでに予想以上に秋は深まっているが、今日は暑くも寒くもなく無風で歩くには絶好の条件である。長坂と呼ばれている登りを過ぎると傾斜も緩まり時々ガスが流れるので眺望はそれほどないが、右手の牙山(ギッパ)前方の外輪山の岩のそそり立ちが現われては隠れるを繰り返している。硫黄臭の漂う天狗の露地を通過して少し登ると火山館に着いた。浅間山の資料展示や休憩舎、非常時の待避所、連絡拠点などを兼ねた建



物でトイレ、水場も併設されている。

8月に登ったトーミの頭の岩峰が直ぐ上に望める。軽くエネルギー補給と休憩後前掛山へ向かって行く。トーミの頭への草すべりへの分岐を過ぎて湯の平へ、紅葉したナナカマド、たわわの赤い実が目につく。

Jバンドへの分岐点を過ぎるとそれまでの樹林帯を抜けてくる。



と、周囲の雰囲気は一変。右前に巨大な砂山?の様に前掛山が聳え、左にトーミの頭から黒斑山～蛇骨岳～仙人岳と連なる外輪山の眺望が一気に開けてくる。砂利と火山岩の小

石混じりのザレ道の登りは傾斜も増してくると歩きにくくもあるが、眺望ヨシ、





風ナシ、暑さ・寒さナシで広大な風景を楽しみつつの登りで苦しさより、楽しさが勝ってしまう

登りになった。でしょ？

山腹を斜上するようにつけられている道はなかなか行く先が見通せないのどこまで続くのかと



感じさせるが、やがて行く手に導標が表れると山頂外側の火口壁である。この先内側火口へは立入禁止なので右へ外側火口壁の縁に沿って前掛山へ向かう。カマボコ型の待避所から豆粒のように見える山頂標柱を目指して最後の登りに、右下ににすり鉢状に広がる外輪山が見事な景観を見



せ、左には噴煙上げる内側火口の盛り上がりを見ながら前掛山山頂の標柱に着く。

更に先にある最高点へは立入禁止になっている。



外輪山の尾根越しに雲海を挟んで意外と近くに北アルプス全山の連なりが一

望出来る。何とも贅沢な展望台である。

軽食&写真の時間を過ぎて下山になった。火口壁からザレの山腹道の下りは筋肉を酷使するブレーキングが必要でトレーニング不足だと翌日以降イテテッ！の快感を味わうことになるかも。

ジャスト1時間で火山館に戻って来て

一息、手持ちの食糧などを広げ今日唯一の憩いの時間になった。



火山館下の天狗の露地から牙山の岩と紅葉の競演が西陽に映えて見事な絵画となっていた。山

での一期一会を実感できる幸せな瞬間だ。

二の鳥居からは不動滝経由の道へ、直ぐ下が不動滝で10m位の二段の滝で下段からはシャワーに落ちる滝はマイナスイオン満喫のポイントだった。



沢に沿った道

で一の鳥居まで下り、あとはのんびり浅間山荘まで戻り、歩き終わりになった。

日帰りで標高差1100mの登降を歩いた割には皆余力もありそうで、しっかり歩ける会員が増えて、頼もしく、ウレシイ。平日計画にも拘らず参加いただいたメンバーに感謝です、またよろしくお願ひします。

こぶし会も山をしっかり歩ける会になってきたぞ〜！

(記&写真・涌井 良明)  
(写真提供・伊藤 久雄)

